

新卒就職採用活動の適正化に関する意見

昨今の採用活動の早期化や新卒に限定した採用方法などが、大学教育を阻害し、人材育成に悪影響を及ぼすものとして、社会問題となってきた。経済同友会では、社会的責任の観点から、新卒就職採用活動の早期化の是正、既卒者への対応、雇用の拡大等について、関係する教育問題委員会、雇用・労働市場委員会、企業経営委員会が意見書を取りまとめ、1月21日に発表した。

*詳しくは<http://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2010/110121a.html>

I 新卒採用活動の早期化是正について

① 広報活動の開始時期

学生向け会社説明会・セミナー等の開催、エントリーシートの公開・受付、OB訪問等、選考を目的としない活動。

大学3年生の3月以降とする。

※修士課程は1年生の3月以降(現状：大学3年生の10月～)

② 選考活動の開始時期

採用試験、面接等、採用判断を伴う活動。

大学4年生の8月以降とする。

※修士課程は2年生の8月以降(現状：大学4年生の4月～)

※見直し時期：2014年3月の卒業予定者を対象とした採用活動から実施する。

主な理由

- ・ 学業を阻害することでわが国全体の人材レベルが劣化すれば、国益にも、個別企業にとってもマイナスであり、ひいては日本企業の国際競争力にも影響する。
- ・ 早期化によって、海外留学生が企業の採用時期に間に合わない

いとすれば、留学すること自体が就職に不利となり、海外への留学がますます減少するおそれがある。また、外国人の日本への留学にも悪影響を及ぼすことが懸念される。

II 既卒者への対応について

新卒一括採用を実施している企業は、既卒者についても新卒者と同様の扱いにすべきである。

※卒業後の経過年数等は、各社の判断により弾力的に設定することが妥当である。
 ※見直し時期は、各企業、各業界の判断で、可能な限り速やかに実施すべきである。

主な理由

- ・ 新卒就職採用活動は景気の変動に大きく左右されるため、学生にとって必ずしも均等とはいえない。景気低迷期に就職活動に参加する学生は就職が難しく、その後の人生に大きく影響を与える場合も少なくない。

・ 新卒見込として一度しか挑戦できないシステムは、あまりに硬直的であり、短期留学、ボランティア活動への参加等、有意義な機会も制限されてしまう。

III 雇用の拡大について

① ミスマッチの解消

新卒者に関しては、中堅・中小企業において、依然として求人超過の状態が続いており、ミスマッチを解消することで雇用は拡大の余地がある。

② 既卒者向けインターンシップの導入

既卒未就業者に対しては、緊急時の対策として、政府官公庁、地方自治体、企業が連携して、既卒未就業者向けのインターンシップを導入すべきである。

③ 成長産業の育成と雇用の創出

政府は「新成長戦略」を着実に実行し、今後、成長が見込まれる産業分野に対する積極的な支援を行うべきである。企業は新事業創造に挑戦し、雇用創出への期待に応えていく必要がある。